

平成20年

岐阜県観光レクリエーション動態調査結果

平成21年8月

観光・ブランド振興課

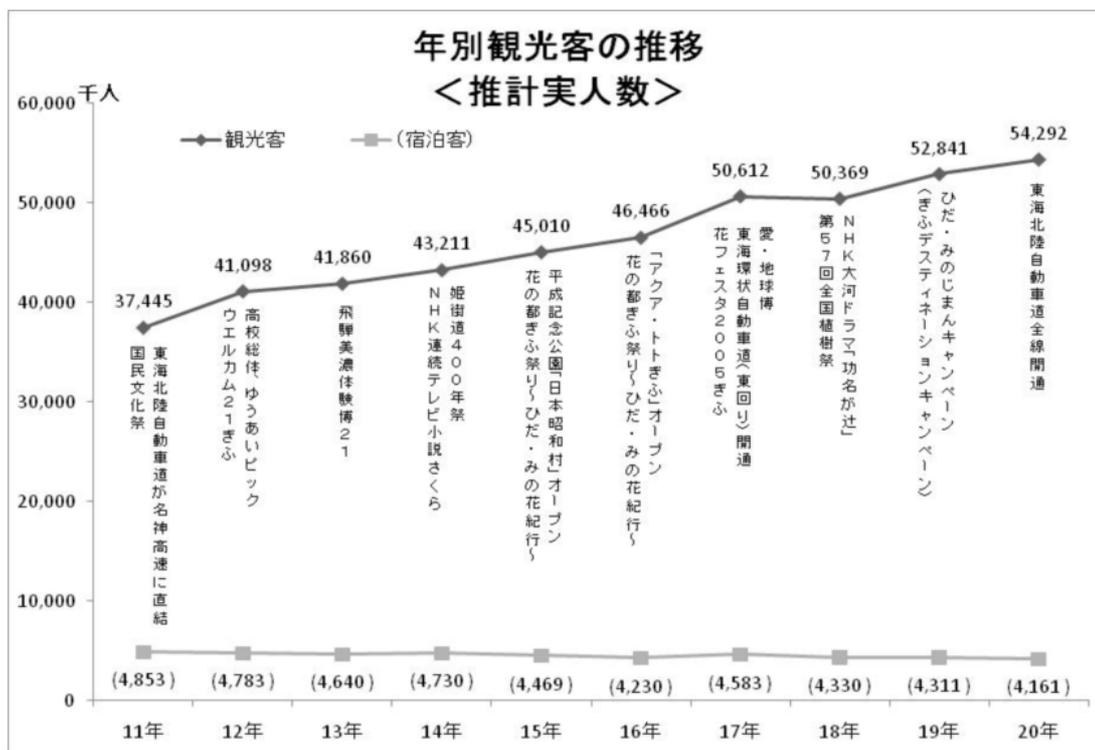
1 観光客数

(1) 県全体の動向

平成20年の観光入り込み客数は、前年と比較して、宿泊客数は減少(前年比 3.5%)したものの、日帰り客数は増加(前年比+3.3%)し、全体では1,451千人増加(前年比+2.7%)の54,292千人と、現在の統計手法となった平成9年以降で最高の入り込みとなった。

「食」と「温泉」をテーマとする「飛騨・美濃じまん観光キャンペーン」や、中日本高速道路株式会社と共同で実施した観光PRキャラバンなどの誘客事業の展開に加え、7月に東海北陸自動車道が全通したことが、入り込み客数を押し上げた。

なお、集客数の県内トップは、前年に引き続き土岐プレミアム・アウトレットの4,310千人となった。

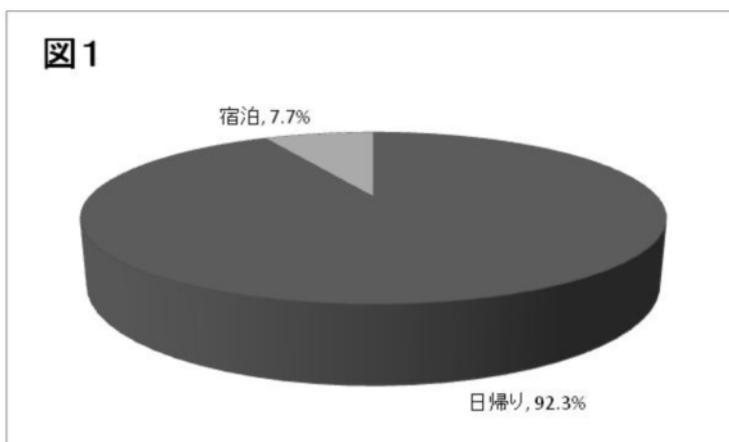


日帰り・宿泊別観光客数

平成20年の観光客数は54,292千人であったが、これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は50,131千人、宿泊客は4,161千人と日帰り客が全体の92.3%を占めており、昨年よりも日帰り客の割合が0.5ポイント増加した。(図1)

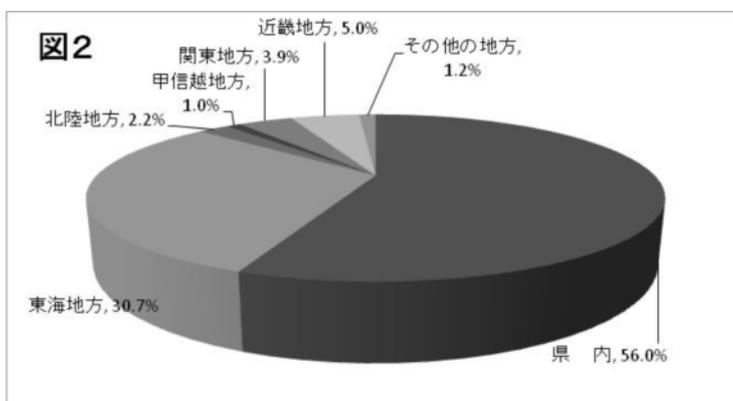
圏域別に見ると、西濃圏域が日帰り客の割合が最も多く(構成比98.0%)、岐阜・中濃・東濃についても日帰り客が9割以上を占める。

一方で飛騨圏域は、日帰り客 71.1%、宿泊客 28.9%と他圏域に比べ宿泊客の割合が高く、県全体の宿泊客 4,161 千人のうち 2,231 千人と全体の 53.6%を占めた。



居住地別観光客数

居住地別に見ると、県全体では県内客は 30,395 千人（構成比 56.0%）、県外客は 23,897 千人（構成比 44.0%）と、県内客が多くを占めたが、飛騨圏域では県外客の割合が 67.5%と高い。

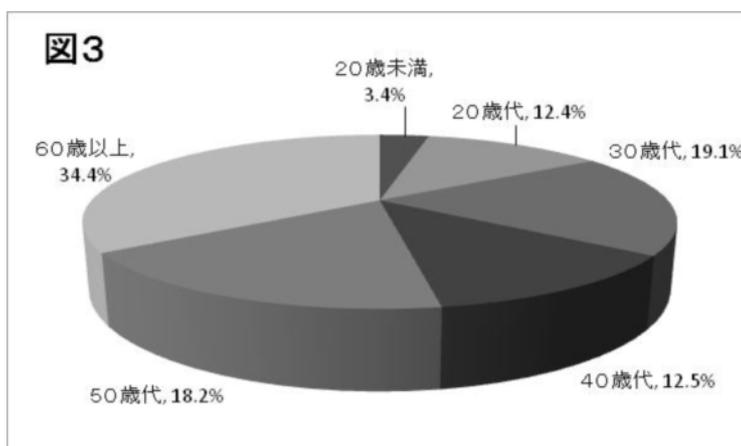


県全体では、県外客のうち 69.8%が東海地方からの観光客であり、以下近畿地方、関東地方と続いている。

また、東海地方からの観光客の割合が特に高いのは、西濃圏域および東濃圏域である。（図2）

男女別・年齢別観光客数

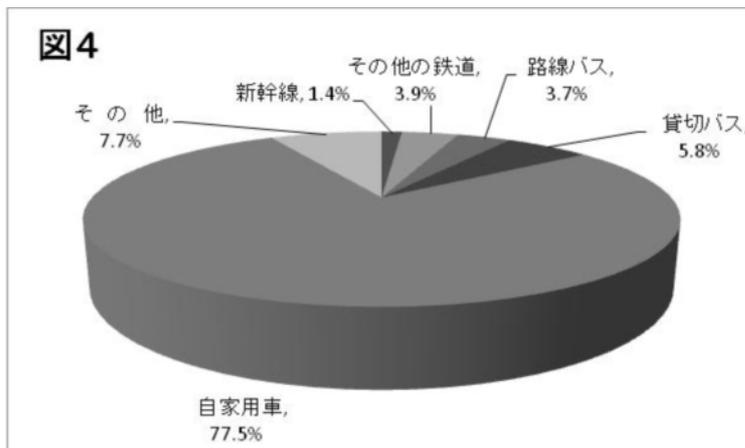
男女別で見ると、男性が 25,265 千人（構成比 46.5%）に対し、女性は 29,027 千人（構成比 53.5%）と女性が上回り、前年（男性 51.6%、女性 48.4%）と比べて女性の割合が大幅に増加した。



年齢別では、60歳以上が 34.4%と最も多く、以下 30歳代、50歳代と続いている。（図3）

利用交通機関別観光客数

利用交通機関別に見ると、前年に引き続き自家用車が最も多く全体の77.5%を占めたが、前年より減少する一方、路線バス（前年比+56.0%）及び、貸切バス（前年比+30.9%）は増加した。（図4）



同行者別観光客数

同行者人数別に見ると、「2～3人」と「4～5人」で全体の80.1%を占めており、少人数による観光形態が主流となっている。

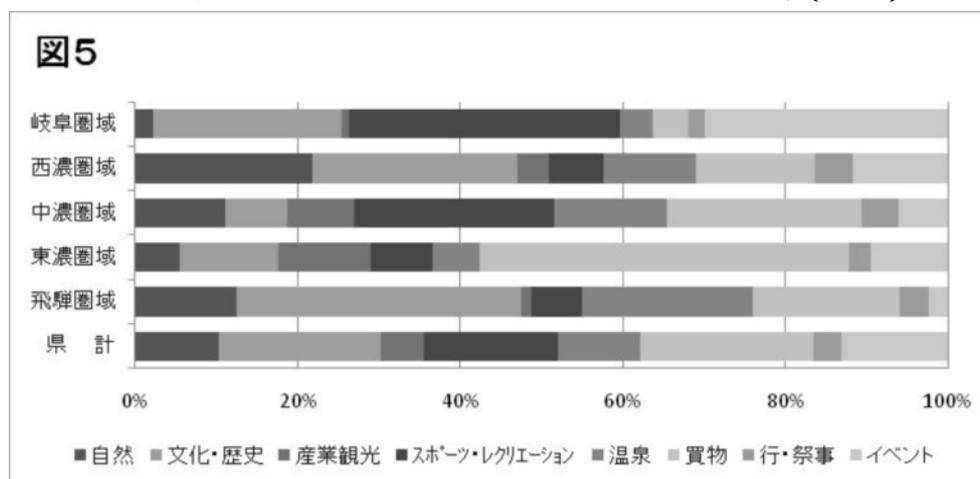
同行者別に見ると、「家族」が48.8%と最も多いが、前年比では20.7%減少しており、一方で「友人・知人」が前年比で60.6%増加し、全体の26.1%を占めた。

「団体旅行」の割合は、全体の4.7%に留まり、引き続き低い。

観光地分類別観光客数

観光地分類別に見ると、「買物」と「文化・歴史」で全体の40%以上を占め、以下「スポーツ・レクリエーション」、「イベント」、「自然」、「温泉」、「産業観光」、「行・祭事」と続く。

圏域別で見ると、岐阜圏域は「スポーツ・レクリエーション」や「イベント」、西濃圏域は「文化・歴史」や「自然」、中濃圏域は「スポーツ・レクリエーション」や「買物」、東濃圏域は「買物」、飛騨圏域は「文化・歴史」や「温泉」が多い。（図5）



(2) 各圏域の動向

< 観光客実人数 (推計) >

(単位：千人、%)

	日帰り客数	宿泊客数	観光客数(合計)	対前年比
岐阜圏域	12,051	714	12,765	1.3
西濃圏域	11,413	235	11,649	1.6
中濃圏域	9,651	548	10,199	+1.3
東濃圏域	11,533	432	11,965	+9.2
飛騨圏域	5,483	2,231	7,713	+9.5
合計	50,131	4,161	54,292	+2.7

千人未満を四捨五入しているため、内訳の計は合計と一致しないことがある。

岐阜圏域

- ・観光客数は12,765千人で、前年と比べて165千人の減少(対前年比 1.3%)となった。このうち、日帰り客数は12,051千人となり、前年に比べ5万8千人減少(対前年比 0.5%)し、宿泊客数も714千人と106千人減少(対前年比 13.0%)した。
- ・観光地点別では、岐阜シティ・タワー43が通年(前年は10月にオープンしたため3ヶ月間)の入り込みとなり増加したが、夏場の猛暑と原油高等が影響して、河川環境楽園や長良川花火大会など主要観光地点で入り込みが減少し、根尾川花火大会も雨天であったため減少した結果、圏域全体としては減少となった。

【増加地点数：25、減少地点数：27】 新規調査地点、その他地点を除く。以下同じ。

西濃圏域

- ・観光客数は11,649千人で、前年と比べて187千人の減少(対前年比 1.6%)となった。このうち、日帰り客数は11,413千人となり、前年に比べ183千人減少(対前年比 1.6%)し、宿泊客数も235千人と4千人減少(対前年比 1.6%)した。
- ・観光地点別では、いびがわマラソンでの増加(対前年比+177.8%)はあったものの、養老公園や伊吹山ドライブウェイ等の入り込みが原油高や景気の後退等を理由に減少し、圏域全体では減少となった。

【増加地点数：36、減少地点数：46】

中濃圏域

- ・観光客数は10,199千人で、前年と比べて130千人の増加(対前年比+1.3%)となった。このうち、日帰り客数は9,651千人となり、前年に比べ129千人増

加（対前年比+1.4%）し、宿泊客数も548千人と1千人増加（対前年比+0.1%）した。

- ・観光地点別では、7月の東海北陸自動車道の全通により、牧歌の里など沿線観光施設で増加が見られたほか、年初の降雪量の増加とスノーボードW杯効果などからスキー客が増加し、圏域全体の観光客数を押し上げた。

【増加地点数：63、減少地点数：61】

東濃圏域

- ・観光客数は11,965千人で、前年と比べて1,005千人の増加（対前年比+9.2%）となった。

このうち、日帰り客数は11,533千人と、前年に比べ1,009千人増加（対前年比+9.6%）したが、宿泊客数は432千人と、5千人の減少（対前年比-1.0%）となった。

- ・観光地点別で見ると、前年に引き続き集客数県内トップとなった土岐プレミアム・アウトレットが増加したほか、セラミックパークMINOで開催された国際陶磁器フェスティバルや、中津川市の中心市街地で始まった六斎市などのイベントが開催され、日帰り客数を押し上げた。

【増加地点数：37、減少地点数：52】

飛騨圏域

- ・観光客数は7,713千人で、前年と比べて669千人の増加（対前年比+9.5%）となった。

このうち、日帰り客数は5,483千人と、前年に比べ705千人増加（対前年比+14.7%）したが、宿泊客数は2,231千人と、36千人の減少（対前年比-1.6%）となった。

- ・観光地点別に見ると、7月の東海北陸自動車道の全通により、白川郷周辺地点の入り込みが大幅に増加したほか、高山市の古い町並みでも増加した。

一方、東海北陸自動車道沿線であっても荘川や清見の観光施設は減少したほか、下呂温泉も減少した。

- ・「岐阜の宝もの認定事業」において、8月に「岐阜の宝もの」第1号に認定した「小坂の滝めぐり」では、拠点施設である下呂市小坂町の「がんだて公園」の入り込み客数が、前年より約2万2千人増加（対前年比+15.9%）した。

【増加地点数：35、減少地点数：46】

(3) 外国人延べ宿泊客数の動向

外国人の延べ宿泊客数について、267,934人で、前年と比べて46,961人の

増加(対前年比+21.3%)となり、過去最高を記録した。

最も増加人数が多い圏域は、飛騨圏域で、37,390人増加(前年比+24.7%)したが、他の4圏域も全て増加した。

<外国人延べ宿泊客数の年別推移>

(単位:人)

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
岐阜圏域	32,783	48,419	35,340	40,047	41,444
西濃圏域	6,441	28,575	23,194	22,177	23,469
中濃圏域	5,622	8,750	4,974	5,309	9,775
東濃圏域	1,689	5,697	1,736	2,183	4,599
飛騨圏域	46,831	103,646	122,453	151,257	188,647
県計	93,366	195,087	187,697	220,973	267,934

1人の宿泊客が圏域内または県内の2箇所宿泊する場合、圏域内または県内で2連泊する場合、宿泊客はそれぞれ2人と数える

2 観光消費額

平成20年の観光消費額の総額は286,290百万円(対前年比1.4%)で、そのうち日帰り客分は190,192百万円(対前年比+5.9%)、宿泊客分は96,098百万円(対前年比13.3%)であった。

また、1人当たりの平均消費額は、日帰り客は3,794円(対前年比+2.6%)、宿泊客は23,096円(対前年比10.2%)であった。

宿泊客数が減少し、さらに宿泊客一人当たりの平均消費額が減少したことが、全体の観光消費額の減少につながった。

3 経済波及効果(推計)

平成20年の生産誘発額は408,997百万円(対前年比0.8%)で、就業誘発効果は41,133人(対前年比5.6%)となった。

	平成20年	平成19年	対前年比
生産誘発額	408,997百万円	412,353百万円	0.8%
就業誘発効果	41,133人	43,557人	5.6%

<参考> 中津川市の製造品出荷額等 392,271百万円(H19県工業統計調査)
瑞浪市の人口 41,350人(H21.7.1推計人口)

【参考】

調査の概要

本調査は、社団法人日本観光協会の「全国観光統計基準」に基づく。

1. 調査期間

平成20年1月1日から平成20年12月31日まで

2. 調査対象

(1) 観光地点

観光地点の定義

年間観光客が50,000人以上、または季節的観光客が月間5,000人以上

観光地点の分類

観光地点の分類は以下の区分による。

- ・「自然」・・・優れた自然環境であり、管理者が常駐している景勝地（山岳、高原、湖沼、河川景観、その他鍾乳洞など特殊地形）。
- ・「文化・歴史」...文化財や歴史的建造物を有し、管理者が常駐している施設（城郭、神社・仏閣、庭園、町並み、旧街道、史跡、博物館、資料館、美術館、動植物園、水族館、その他橋、駅、ビル、ダムなど建造物）。
- ・「産業観光」・・・広範囲な敷地を有し、管理者が常駐している工場、農園、市場、牧場、伝統工芸等の産業拠点（観光農林業、観光牧場、観光漁業、伝統工芸、その他の産業観光施設）。
- ・「スポーツ・レクリエーション」・・・管理者が常駐している施設。
ただし、収容人数99人以下の施設、合併前市町村区域の利用者が8割以上を占める施設は除外し、観光利用の対象として取り扱っているものに限定（ゴルフ場、スキー場、テニスコート、アイススケート場、サイクリング場、ハイキングコース、キャンプ場、大規模公園、レジャーランド・テーマパーク、複合的スポーツリゾート施設、その他スポーツレクリエーション施設）。
- ・「温泉」・・・温泉あるいは鉱泉の湧出する地域であり、管理者が常駐している施設、地域（温泉、その他入浴施設）。
- ・「買物」・・・管理者が常駐している施設。
管理者が常駐している施設。ただし、収容人数99人以下の施設、合併前市町村区域の利用者が8割以上を占める施設は除外し、観光利用の対象として取り扱っているものに限定（道の駅等、複合的ショッピング施設・街、朝市・市場、郷土料理店・レストラン）。
- ・「行祭事」・・・合併前市町村区域住民の生活において伝統と慣行により継承されてきた、定期的に行われる集客5000人以上の行祭事（行祭事、郷土芸能、

地域風俗)。

- ・「イベント」…常設もしくは特設の会場において、一定の成果を期待して人や金を集めることを目的として行われる集客5000人以上のイベント(博覧会、展示会、見本市、コンベンション、国体、花火大会)。

(2) 宿泊施設

・宿泊施設の定義

管理者が明確で常駐しており、毎日の利用者数を確実に把握することができ、宿泊に必要なサービスを営利目的で提供する、観光客を宿泊させるための施設。ただし、個人所有の別荘、リゾートマンション、ホームステイ先の個人住居、同伴ホテル・旅館、カプセルホテル等は除外。

3. 調査実施機関

県、市町村(平成20年末時点の市町村の別による)